

2019年3月10日

東京電力ホールディングス株式会社
代表執行役社長 小早川智明 様

原子力民間規制委員会・東京
代表 岩田俊雄
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-6-2
ダイナミックビル5F
E-mail mkiseii.t@gmail.com

福島第一原発事故加害者東京電力への質問書

原子力民間規制委員会・東京に対する東電の回答は矛盾だらけでした。あちらを立てればこちらが否定される、というものばかりです。

ここで、東電は「民間規制委には今後回答しない」といいますが、もはや東電は、回答できないのです。

例えば、原子炉や格納容器に存在する水について、これが溶けた核燃料と接触すると水蒸気爆発を起こし、原子炉や格納容器が破裂する心配があります。しかし、水がなければ、核燃料は格納容器の下にもぐりこみ、いわゆるチェイナシンドロームになってしまいます。

東電はこの矛盾を解決できないから、「民間規制委には回答しない」というのです。「情けない東電の姿」というところでしょうか。

原子力の現状をみると、民間企業の東芝は、国の原子力推進を信じて原発に肩入れしましたが、国の支援は得られず、「東芝」そのものを失ってしまいました。これを見た日立は、イギリスでの原子力を放棄して、これ以上の損害にならないよう対策しました。

一方、東電は、今後も国の支援を期待して、国に協力するらしいですが、国は財政負担に耐えられず、原子力を放棄する可能性が出てきていると認識すべきではないでしょうか？

なお、この質問に答えることができないのであれば、無理に答えなくても結構です。

以上